

## 閉会挨拶

日本海事センター理事長の平垣内でございます。

まず、法務省民事局の渡辺参事官様、山口弁護士から、法制面と実務面から、船荷証券の電子化の検討状況など貴重なお話を拝聴させていただき、誠に有難うございました。

そして、この難しい課題について、モデレーターとして、適確にQ&Aセッションをまとめていただきました池山弁護士も誠に有難うございました。

また、長時間にわたり今回のセミナーをご視聴いただいた大勢の皆様にも御礼申し上げます。

さて、本日の船荷証券の電子化というテーマは、物流DXあるいはフィジカルインターネットの課題のひとつと認識しております。

最近この関係で、トレードレンズの運用停止ということがありました。物流DX化の流れのなかで、ご案内のとおり、トレードレンズは海運関係では最大級のプラットフォームであるのに商用化できないというのは、個人的には非常に不思議な想いを持ちました。

いずれにしましても、もこのようにグローバル化や国際分業の進展が進む中で、デジタル化の発展、貿易完全電子化への取組みは不可欠な取組みであり、海運の分野では有価証券である船荷証券の電子化とその利用の促進ができる限り早期に実現することを期待したいと思います。

本セミナーにより、国際物流網が維持されている現状の中での船荷証券の電子化に関するご理解が少しでも進んだとしたら幸いです。

当センターとしましては、物流 DX 関係の調査研究をさらに進めてまいりたいと思います。

また、今回のセミナーを通じて産官学の関係者の連携・協働が進むことを期待したいと思います。

本日はどうもありがとうございました。